

第2節 計画ごみ質の設定

1 搬入ごみの内容

ごみの搬入については、住民サービスへの影響の観点から極力変更をさせないことを想定しています。搬入ごみの種類についても同様であり、各区分において以下のように現状と同じ区分とごみの種類を想定します。

なお、法令改正等により内容を変更する必要がある場合は適宜対応します。

表 3-2-1 搬入ごみの内容

【破碎ライン搬入物】

項目		内 容
燃やせないごみ	ガラス類	・飲料や食品が入っていた容器以外のびん（化粧品が入っていたびんなど） ・ガラス製の食器（コップ、皿、哺乳瓶など） ・ガラス、レンズ（メガネなど）、鏡 ・白熱電球、LED ライト、グローランプ
	家電類	・生活家電（電子レンジ、炊飯器、掃除機など） ※冷蔵庫等は対象外 ・冷暖房機（扇風機、電気ストーブ、ファンヒーターなど） ※エアコンは対象外 ・ゲーム機、おもちゃなど
	金物類	・なべ、フライパン ・刃物（包丁、ナイフ、草刈り鎌など）、くぎ・針など鋭利な金属 ・工具（ペンチ・金づち・ドライバーなど）、金属製の文具 ・金属製の家具など
	缶類	・飲食物以外のものが入っていた缶、汚れている缶（油など） ・金属製のふた（飲み物のキャップや、分離した缶詰のふたなど） ・スプレー缶、カセットボンベ ※穴の開いていないスプレー缶も含まれる
	陶器類	・食器類（茶碗、お皿、マグカップなど） ・花びん、植木鉢など
	その他	・三戸組合の燃やせないごみにはアルミ缶、スチール缶が含まれる。 ・三戸組合の燃やせないごみのうち、穴を開けられないスプレー缶、ライター、乾電池、蛍光管は紙袋で分けて排出されるので施設側で仕分けを行う。
粗大ごみ	大型の家具など	・タンス、ベッド、自転車などの大きなもの
	長いもの	・バット、カサ、スキー板、物干し竿などの長いもの
	45 リットルサイズの袋に入りきらないもの	・ファンヒーター、電子レンジ、布団、ガスレンジなど

【資源化ライン搬入物】

項目		内 容
資源ごみ	缶	・飲み物が入っていたアルミ缶・スチール缶（清涼飲料水、お酒、お茶、コーヒーなど） ・食べ物が入っていた缶詰（果物、魚類など） ・ペットのえさの入っていた缶詰（キャットフードなど）
	びん	・飲み物が入っていたびん（清涼飲料水、お酒など） ・飲み薬が入っていたびん（ドリンク剤、錠剤など） ・調味料が入っていたびん（ジャム、醤油など）
	ペットボトル	・飲み物が入っていたペットボトル（清涼飲料水、お酒など） ・調味料が入っていたペットボトル（醤油、みりんなど）

【有害ごみ搬入物】

項目	内 容
有害ごみ	・乾電池（使い切りの電池） ・蛍光管（電球型蛍光管含む） ※LED タイプは不燃ごみ又は直管型で袋からはみ出る場合は粗大ごみ ・水銀体温計

2 搬入ごみの単位体積重量

単位体積重量は、ごみの貯留スペースの容量計算を行う際の実単位となる、重要な項目です。ごみの内容を変更しないことから、単位体積重量は既存の資料を基に設定します。既設の八戸リサイクルプラザでは3年に1回の精密機能検査を継続して実施しており、その中では破砕ライン（燃やせないごみ・不燃性粗大ごみ）と、資源化ライン（缶・びん・ペットボトル）の単位体積重量は以下のように整理されています。

ここで、破砕ラインの搬入ごみ単位体積重量は令和4年度の2回目検査結果の影響で令和4年度値が大きくなっています。資源化ラインの搬入ごみ単位体積重量は破砕ラインより大きな変化はありません。

表 3-2-2 精密機能検査における単位体積重量

破砕ライン		R1 精密機能検査		R4 精密機能検査		R7 精密機能検査		参考平均
		1 回目	2 回目	1 回目	2 回目	1 回目	2 回目	
破砕ライン	重量 kg	430	380	360	460	410	350	—
	容量 m ³	1.75	1.62	1.49	1.47	1.64	1.59	—
	単位体積重量 t/m ³	0.246	0.235	0.242	0.313	0.250	0.220	—
	〃（年度統合） t/m ³	0.241		0.278		0.235		0.250
資源化ライン	重量 kg	140	120	120	120	130	70	—
	容量 m ³	1.75	1.75	1.39	1.44	1.64	1.44	—
	単位体積重量 t/m ³	0.080	0.069	0.086	0.083	0.079	0.049	—
	〃（年度統合） t/m ³	0.075		0.085		0.064		0.074

本計画においては、実際には三戸組合分のデータも必要ですが、当該組合は本組合のような搬入出ごみのごみ質調査を実施していないことから、ごみ質設定には本組合のデータをそのまま使用します。

ここで、計画設計要領によれば、燃やせないごみ・不燃性粗大ごみは0.05～0.3 t/m³、資源ごみ（缶・びん・ペットボトル）は0.02～0.65 t/m³の範囲とされています。

表 3-2-3 計画設計要領におけるごみ質

		代表値	（範囲値）
不燃性粗大ごみ	t/m ³	0.15	(0.1～0.3)
不燃ごみ	t/m ³	—	(0.05～0.25)
缶	t/m ³	—	(0.03～0.10)
びん	t/m ³	—	(0.20～0.65)
ペットボトル	t/m ³	—	(0.02～0.05)

設定に際して、破砕ラインは令和4年度値が計画設計要領の0.3t/m³を超過していることから、当該年度を含めた平均値は適さないと判断し、令和7年度値を採用します。また、資源化ラインは過度に低くすると建屋面積を圧迫することから、平均値を採用します。

3 搬入ごみの組成

精密機能検査では組成についても調査されていますが、別途八戸リサイクルプラザでは年間の搬入出量を品目ごとに整理しています。また、搬入物中の処理不適物も計上されていることから、より正確なデータであるといえるため、こちらのデータを採用します。

破砕ラインの組成では破砕鉄の割合が減少傾向にあり、可燃残渣が増加傾向、その他は概ね横這いです。

資源化ラインの組成ではスチール缶が減少傾向、びん類が全体的に微減傾向、ペットボトルが増加傾向にあります。

表 3-2-4 搬出データによるごみ質

【破砕ラインの搬出データによる組成結果】

(単位：t)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	5ヶ年平均
破砕鉄	1,381.69 (16.4%)	1,284.85 (16.0%)	1,208.37 (14.8%)	1,113.91 (14.5%)	1,084.59 (13.8%)	(15.1%)
破砕アルミ	241.12 (2.9%)	232.69 (2.9%)	222.70 (2.7%)	215.12 (2.8%)	214.30 (2.7%)	(2.8%)
可燃物残渣	3,324.44 (39.4%)	3,109.41 (38.6%)	3,348.67 (41.0%)	3,124.31 (40.7%)	3,310.88 (42.0%)	(40.3%)
不燃物残渣	3,221.70 (38.2%)	3,182.48 (39.5%)	3,143.70 (38.5%)	3,012.24 (39.2%)	3,041.34 (38.6%)	(38.8%)
可燃不適物	114.00 (1.4%)	91.57 (1.1%)	106.50 (1.3%)	106.60 (1.4%)	114.45 (1.5%)	(1.3%)
破砕不適物	159.80 (1.9%)	147.11 (1.8%)	140.73 (1.7%)	112.83 (1.5%)	118.18 (1.5%)	(1.7%)
合計	8,442.75 (100.0%)	8,048.11 (100.0%)	8,170.67 (100.0%)	7,685.01 (100.0%)	7,883.74 (100.0%)	(100.0%)

【資源化ラインの搬出データによる組成結果】

(単位：t)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	5ヶ年平均
スチール缶	285.01 (10.1%)	258.78 (9.6%)	248.14 (9.1%)	219.54 (8.6%)	207.67 (8.3%)	(9.2%)
アルミ缶	564.21 (20.1%)	534.81 (19.8%)	539.03 (19.7%)	495.53 (19.5%)	514.15 (20.4%)	(19.9%)
無色びん	149.34 (5.3%)	123.58 (4.6%)	115.55 (4.2%)	115.74 (4.6%)	99.98 (4.0%)	(4.5%)
茶色びん	297.46 (10.6%)	255.53 (9.5%)	264.70 (9.7%)	220.44 (8.7%)	221.11 (8.8%)	(9.5%)
その他色びん	763.38 (27.1%)	752.52 (27.9%)	756.37 (27.7%)	699.16 (27.5%)	655.49 (26.1%)	(27.3%)
ペットボトル	754.12 (26.8%)	770.88 (28.6%)	808.01 (29.6%)	791.56 (31.1%)	817.12 (32.5%)	(29.6%)
合計	2,813.52 (100.0%)	2,696.10 (100.0%)	2,731.80 (100.0%)	2,541.97 (100.0%)	2,515.52 (100.0%)	(100.0%)

採用する数値については平均値も考えられますが、生活様式の変化に伴い組成も変化していることを考え、破砕ラインも資源化ラインも、最新値である令和6年度値を採用します。

表 3-2-5 搬入ごみのごみ質

	項 目		破砕ライン	資源化ライン
単位体積重量	—		0.235 t / m ³	0.074 t / m ³
組 成	破 砕 ラ イ ン	破砕鉄	13.8%	
		破砕アルミ	2.7%	
		不燃残渣	42.0%	
		可燃残渣	38.6%	
		可燃不適物	1.5%	
		破砕不適物	1.5%	
	資 源 化 ラ イ ン	スチール缶		8.3%
		アルミ缶		20.4%
		無色カレット		4.0%
		茶色カレット		8.8%
		その他カレット		26.1%
		ペットボトル		32.5%